

印刷業界の新技术情報を三美印刷がお届けするメールニュース

sanbi-i-com (No.188)

オーディオブック

音声合成(読み上げ)との関係

書籍は目で読むものばかりではありません。耳で聞くオーディオブックというものがあります。そこで今回は、米国と日本のオーディオブックの市場規模の統計、推計をご紹介します。また、オーディオブックと音声合成(ソフトによる読み上げ)との関係を整理してみます。

1. 米国では大きな市場を形成

[米国出版社協会\(AAP\)の2020年の統計\(AAP StatShot Annual Report 2020\)を紹介した Publishing Perspectives 誌の記事](#)によれば、教育機関向け等を除く一般消費者向け出版物のカテゴリーである Trade の売上は 166.7 億ドルでした。オーディオブック(Downloaded Audio)はこの Trade に含まれており、下表の通り、売上は 14.2 億ドル、Trade に占める割合は 8.5%でした。対前年比も大幅増で好調でした。

	売上 億ドル	対前年比	Trade に 占める割合
Trade	166.7	+6.0%	100%
Downloaded Audio	14.2	+13.2%	8.5%
eBook	21.2	+11.7%	12.7%

(注1) オーディオブックには Downloaded の他に CD 等に収めた Physical Audio もあるのですが、記事では言及されておりません。2019 年統計での Trade に占める割合は Downloaded の 8.1%に対し Physical は 0.6%しかなかったのもはや無視してよい種別とみなされているようです。

(注2) ついでですが、上表に電子書籍 eBook の数字も入れておきました。2014 年以降の減少傾向を脱し、2020 は久しぶりに増加となりました。

AAP に非加盟の出版社の売上は不明なので、便宜的にこの 14.2 億ドルを米国のオーディオブックの市場規模と見ることにします。14.2 億ドルを 115¥/\$ で換算すれば 1633 億円です。これは後述の日本市場の 2021 年度の予測値、140 億円の 10 倍以上にもなる

大きな額です。

<日本市場の推計・予測>

日本市場について検索した限りでは、日本能率協会総合研究所による 2020 年 1 月時点での推計・予測しか見つけられませんでした。以下のリンク先にグラフがありますが、2021 年度は 140 億円と予測していました。2021 年の日本の出版市場は 1 兆 6742 億円(出版科研の推計値)でしたが、これは AAP の Trade の 166.7 億ドル×115=1 兆 9171 億円に近い規模の数字です。にもかかわらず、オーディオブックは米国の 1633 億円に対して 140 億円しかないのですから、日本の市場規模はかなり小さいと言わざるを得ません。

[オーディオブック市場、2024 年に 260 億円規模に](#)

<日米に差がある理由の諸説>

さまざまな説があり、全て拾うのはキリがありませんので、よく目にした説を三つだけ以下に挙げます。

①米国の通勤は自動車なので、ハンズフリーのオーディオブックを車中で聞く文化が定着した。日本は電車が主なので普及していない。

(筆者注) 日本でも電車が主なのは大都市圏だけなので、この説では地方の説明ができません。

②表意文字の漢字が混ざる日本語は、聞くよりも読む方が速くて効率的。

③同音異義語が多い日本語は、耳では意味を取り違えがちだが、目(漢字)なら一瞬で理解可能。

2. オーディオブックとは

日本最大級のオーディオブック配信サービスと称する [audiobook.jp サイト](http://audiobook.jp)のトップ画像の右の方に「オーディオブックとは ナレーターや声優が本を朗読 耳だけで読書が楽しめます」

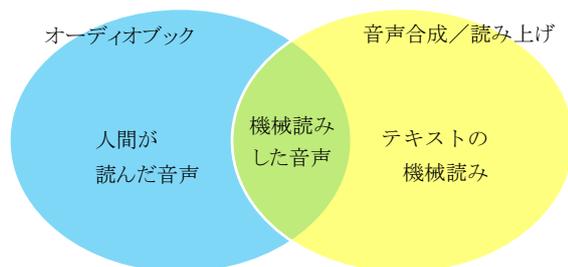
との説明文があります。これだけだと「オーディオブックとは人が読んだもの」と思うかもしれませんが、同サイトでは音声合成で読まれたものも少ないとはいえ売られています。

例えばナレーター名の欄に「ROBOT VOICE 乱歩朗読」とか「響林せいじ(高性能合成音声)」と書かれているものがあります。これらは人ではなく音声合成ソフトの読み上げ機能で朗読されたものです。

従って人による朗読は必須条件ではありません。オーディオブックとは「人間またはソフトが読んだ音声を録音したもの」ということになります。

3. 音声合成(読み上げ)との関係

オーディオブックと音声合成(読み上げ)の関係は集合の交わりの部分がある図で表せます。ソフトで読むことをここでは機械読みと呼ぶことにします。



- オーディオブック(図の青と交わりの薄緑の所)は、mp3等の音声データとなります。
- 青の所は、人間が読むので、クオリティを上げるにはプロのナレーターや声優を雇うなどのコストがかかります。
- 音声合成/読み上げは、テキストが含まれるデータとソフトさえあれば、読者の手元でもできてしまいます。図の黄色の所です。読み上げた音声を保存すればオーディオブックとなり、図の薄緑の所に入ります。ただし読者が他人の文章を音声化したものは公開できません。著作権者側で行ったならば公開、商品化できます。
- 読み上げソフトの性能や価格はピンキリです。例えば、保存はさておき、PDF(スキャンした画像のPDFは除く)を読み上げるだけならば、無料のAdobe Readerでもできます。表示メニューから「読み上げ」→「読み上げを起動」と選ぶだけです。

<ご参考情報: Adobe Reader の読み間違い>

印刷用語が多く使われているPDF文書をAdobe Readerで読ませてみたところ、ほんの数行だけで以下の読み間違いがありました。

文言	正しい読み	Adobe Reader の読み間違い
インキの盛りすぎ	もりすぎ	さかりすぎ
刷版	さつばん	すりばん
刷本	すりほん	さつほん

「近年の読み上げソフトの性能向上はめざましい。かなり人間に近い上手な抑揚をつけて読んでくれるものが増えてきた」と言われています。しかしながら読み間違いについては、おそらくは高価なソフトであっても、やはり専門用語は十分な学習をさせる過程が必要で、初期状態で読み間違いがないというソフトは存在しないと思われます。

薄緑の「読み上げのオーディオブック」の位置付けは今のところは微妙です。人間読みでなければ嫌だという読者からはそっぽを向けられますし、テキストの手元での読み上げで十分だ、多少の読み間違いは仕方ないという読者からも買ってもらえません。しかしながら今後はどうかと言えば、「機械読みなので低コスト。でも人間並みに上手に読んでくれる」「かつプロの編集者のチェックが入るので読み間違いもない」といった長所に価値を見出す読者/聴者が増えて、市場が拡大していく可能性もあります。

以上

(第188回: 2022年2月28日)